

# 教育研究業績書

2016年10月01日

所属：薬学科

資格：准教授

氏名：吉田 都

研究分野	研究内容のキーワード
臨床製剤学	苦味マスキング、注射剤の配合変化、医薬品の適正使用
学位	最終学歴
博士（薬学）	九州大学大学院 薬学府 医療薬科学専攻 博士課程 中退 (福岡大学薬学部)に就職のため)

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 医薬品開発の実際と製剤化	2012年～現在	PBL (Problem-based learning) 形式で行っている。すなわち、医薬品の開発から製剤化に至るまでの過程に関連する課題について少人数のグループ内で調査、考察、討議（スモールグループディスカッション：SGD）を行うことによって情報を共有化した後、全体発表を行っている。学生が、医薬品の開発の実際および製剤化に関する基礎知識を再確認するのみならず、ランダムに作られたグループの中でディスカッションを行うことによって、コミュニケーションスキルを発揮し、各グループに与えられた課題から1つの結論を導く、すなわち問題解決のために、チームワーク力、リーダーシップを発揮することが目標である。
2. プレファーマシー実習 I	2009年～現在	実習書作成の際は、実際に病院や薬局でどのような処方箋が出されているかを事前に調査し、参考にしている。実習準備については実習が滞ることの無いよう十分に配慮している。実習の説明については特に高カロリー輸液に関する説明を行っているが、手計算によるカロリー計算の仕方、計算ソフトを用いたカロリー計算の仕方など、懇切丁寧に説明している。実習時間内に理解することが目標であることを学生に伝え、質問しやすい雰囲気作りを努めている。
3. 製剤化のサイエンス II・III	2008年～現在	各講義内容に関連する薬剤師国家試験問題をまとめて配布し、解説を行っている。製剤服用時に用いる医療器具の使い方など、講義中に説明するだけでは理解しにくい内容については、実際に医療現場で用いている医療器具を見せながら使い方を説明することによって、理解を深めるなどの工夫を行っている。黒板の文字の大きさ・間隔に配慮し、一番後ろに座っている学生にも問題なく読める程度の文字の大きさ・間隔となるように心がけている。重要なポイントがわかりやすいように数回繰り返し解説するなど、メリハリをつけた講義を行うよう心がけている。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 臨床製剤学(改訂第3版)	2012年	三嶋基弘編集、内田享弘、吉田都分担執筆、南江堂
2. Perspective 薬剤学	2011年	大戸茂弘編集、内田享弘、吉田都、分担執筆、京都廣川書店
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 博士（薬学）	2006年03月	九州大学大学院薬学府にて取得。
2. 薬剤師免許	1999年	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 薬剤学実験法必携マニュアル	Ph 共	2014年	南江堂	日本薬剤学会出版委員会編集、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
armaceutical Scientistのために I 物理薬剤学				内田享弘、吉田都 分担執筆 医薬品の苦味の評価とそのマスキング、p228-237 味覚センサを用いた医薬品の苦味評価について、装置の測定原理、H1拮抗薬を例に定量的苦味評価や人工甘味料併用時の苦味抑制効果の予測やキニーネを基準とした予測苦味強度の算出方法を解説した。
2. 図表でわかる栄養療法—基礎から学ぶ臨床—	共	2013年	じほう	東海林徹編集、内田享弘、吉田都分担執筆 輸液フィルター、p140-145 注射用セフトリアキソンナトリウムとカルシウムの配合変化で生成する不溶性微粒子生成に及ぼす因子と溶解度積の概念を用いた予測法を紹介した。
3. Biochemical Sensors: Mimicking Gustatory and Olfactory Senses	共	2013年	PAN STANFORD PUBLISHING	Uchida T, Yoshida M, Quantitative evaluation of bitterness of medicines, p145-184 味覚センサを用いた医薬品の苦味とその抑制の定量的評価について、抗菌薬、漢方薬、経腸栄養剤、口腔内崩壊錠などの事例を紹介した。
4. DDS製剤の開発・評価と実用化手法	共	2013年	(株) 技術情報協会	内田享弘、吉田都分担執筆 第3章DDS医薬品の有効性・安全性の評価と判断例 第2節味覚センサの医薬品揮発への応用、p141-146 異なる2種の味覚センサを利用した医薬品の苦味評価について、代表的な医薬品の苦味の定量的評価、製剤全体の味の定性的評価を行った事例を紹介した。
5. 食品・医薬品のおいしさと安全・安心の確保技術	共	2012年	シーエムシー出版	都甲潔監修、内田享弘、吉田都分担執筆 医薬品の苦味マスキングと味覚センサによる苦味の数値化、p109-118 化学的・物理的苦味マスキング技術について解説し、H1受容体拮抗薬や口腔内崩壊錠の味覚センサを用いた苦味マスキング評価方法について紹介した。
6. Perspective 薬剤学	共	2011年	京都廣川書店	大戸茂弘編集、内田享弘、吉田都分担執筆 半固形製剤、液状製剤、エアゾール製剤、無菌製剤、新規製剤およびDDSに関する研究、p158-194, p565-573 各種剤形の概略を説明し、薬剤学的研究の例として、アムロジピンOD錠の苦味などの服用性を客観的に評価した結果を詳細に解説した。
<b>2 学位論文</b>				
1. Glucocorticoid Is Involved in Food-Entrainable Rhythm of mu-Opioid Receptor Expression in Mouse Brainstem and Analgesic Effect of Morphine (査読付)	共	2006年	J. Pharmacol. Sci., 101, 77-84 九州大学大学院薬学府にて博士(薬学)取得	Miyako Yoshida, Hiroyuki Kiyofuji, Satoru Koyanagi, Ayaka Matsuo, Toshihiro Fujioka, Hideto To, Shun Higuchi, Shigehiro Ohdo マウスの脳幹におけるmu-opioid receptorの発現およびモルヒネの鎮痛効果には摂食リズムが影響するがそのメカニズムとしてグルココルチコイドが関与していることを明らかにした。
2. Glucocorticoid Hormone Regulates the Circadian Coordination of mu-Opioid Receptor Expression in Mouse Brainstem (査読付)	共	2005年3月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 315(3), 1-6 九州大学大学院薬学府にて博士(薬学)取得	Miyako Yoshida, Satoru Koyanagi, Ayaka Matsuo, Toshihiro Fujioka, Hideto To, Shun Higuchi, Shigehiro Ohdo マウス脳幹におけるμ-オピオイドレセプター発現の日内変動は、グルココルチコイドが制御していることを明らかにした。
3. Chronopharmacology of Analgesic Effect and Its Tolerance Induced by Morphine in Mice (査読付)	共	2003年3月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 305(3), 1200-1205 九州大学大学院薬学府にて博士(薬学)取得	Miyako Yoshida, Shigehiro Ohdo, Hiroshi Takane, Yuki Tomiyoshi, Ayaka Matsuo, Eiji Yukawa, Shun Higuchi マウスを用いた研究で、モルヒネの鎮痛効果には日内変動があり、その耐性形成にも時間的差異が認められることを明らかにした。
<b>3 学術論文</b>				
1. Multiple linear regression analysis indicates association of P-glycoprotein substrate or inhibitor character with bitterness intensity, measured with a sensor (査読付)	共	2015年9月	J. Pharm. Sci. 104(9), 2789-2794	Yano K, Mita S, Morimoto K, Haraguchi T, Arakawa H, Yoshida M, Yamashita F, Uchida T, Ogihara T. P糖たんぱく質の基質または阻害剤の特性と味覚センサで測定した苦味との関係性を重回帰分析により評価した。
2. Evaluation of the palatabilities in 10 different famotidine orally disintegrating tablets by combination of disintegration device and taste sensor (査読付)	共	2015年8月	Drug Dev Ind Pharm, 41(8), 1387-1392	Yoshida M, Hazekawa M, Haraguchi T, Uchida T. 10種類のファモチジンOD錠について、崩壊試験器と味覚センサを組み合わせることで服用性を評価した。
3. Prediction of the stability of meropenem in intravenous mixtures (査読付)	共	2015年4月	Chem Pharm Bull., 63(4), 1-7	Takasu Y, Yoshida M, Tange M, Asahara K, Uchida T. メロペネムを輸液に混合した際の安定性の予測式を導き出した。
4. Development and evaluation of an optimized dosage regimen for	共	2015年	JJNP. (in press)	Shino N, Uchida T, Yoshida M, Nomura Y. PK-PDに基づき、高齢者におけるカルバペネム系抗生

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
r carbapenems in elderly patients based on PK - PD parameters and Monte Carlo simulations (査読付)				物質の投与設計の評価を行い、最適化を図った。
5. Evaluation of ebastine-loaded orally disintegrating tablets using new apparatus of detecting disintegration time and e-tongue system (査読付)	共	2014年6月	J Drug Del Sci Tech, 24(6), 684-688	Haraguchi T, <u>Yoshida M</u> , Uchida T. エバスタチン含有口腔内崩壊錠5製剤について硬度測定、崩壊時間測定、味覚センサ測定に基づくユークリッド距離より総合的な服用性の評価を行った。
6. Prediction of the stability of Octoreotide in a mixed infusion (査読付)	共	2014年4月	Chem Pharm Bull., 62(4), 316-321	Takasu Y, <u>Yoshida M</u> , Simizu K, Asahara K, Tange M, Uchida T. 輸液にオクトレオチドを混合した際のオクトレオチドの安定性の予測式を導き出した。
7. 人工唾液を用いた市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性評価II (査読付)	共	2014年3月	医学と薬学, 71(3), 437-447	樋川舞、原口珠実、吉田都、内田享弘 人工唾液を用いて、市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性について評価した。
8. Bitterness evaluation of acidic pharmaceutical substances (NSAIDs) using a taste sensor (査読付)	共	2014年12月	Chem Pharm Bull., 62(12), 1252-1258	<u>Yoshida M</u> , Haraguchi T, Uchida T. 酸性医薬品としてNSAIDsを用い、味覚センサを用いて酸性医薬品の苦味評価を行った。
9. 味覚センサを用いたガストログラフィンの味評価と飲料混合時の味変化の予測 (査読付)	共	2014年12月	Prog. Med., 34(12), 2195-2200	内田 享弘、原口 珠実、吉田都 ガストログラフィンの味に関して味覚センサで評価し、さらに、様々な飲料とガストログラフィンを混合した際の味についても評価した。
10. The angiogenic effect of ONO-1301, a novel long-acting prostacyclin agonist loaded in PLGA microspheres prepared using different molecular weights of PLGA, in a murine sponge model (査読付)	共	2014年11月	Drug Dev Ind Pharm. 40(11), 1435-1442	Hazekawa M, Morihata K, <u>Yoshida M</u> , Sakai Y, Uchida T. ONO-1301含有PLGAマイクロスフェア局所投与後の血管新生作用を、薬物血中薬物濃度-時間曲線、製剤の局所滞留性、ヘモグロビン値より評価した。
11. Evaluation of palatability of 10 commercial amlodipine orally disintegrating tablets by gustatory sensation testing, OD-mate as a new disintegration apparatus and the artificial taste sensor (査読付)	共	2013年9月	J. Pharm. Pharmacol. 65(9), 1312-1320	Uchida T, <u>Yoshida M</u> , Hazekawa M, Haraguchi T, Furuno H, Teraoka M, Ikezaki H. アムロジピンOD錠10製剤を対象に、官能試験、口腔内崩壊錠試験器 (OD-mate)、センサ測定を駆使することで服用性の客観評価が可能であった。
12. SD法を用いた市販アムプロキシール錠10製剤の服用性評価 (査読付)	共	2013年8月	新薬と臨牀, 62(8), 1389-1397	樋川舞、吉田都、内田享弘 SD法を用い、市販アムプロキシール錠10製剤間の服用性の違いが、「製剤の味」と「服用時の舌触り」の二つの因子から構成されることを示した。
13. 人工唾液を用いた市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性評価 (査読付)	共	2013年6月	医学と薬学, 69(6), 929-938	樋川舞、原口珠実、六戸部真里、吉田都、内田享弘 市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠9種を対象に、高齢者を想定した少量唾液条件下での崩壊性評価と、錠剤として重要な物理的な強度を評価した論文。
14. Prediction of compatibility between ozagrel sodium preparation for injection and calcium on the basis of the solubility product (査読付)	共	2013年5月	Chem. Pharm. Bull. 61(5), 567-571	Tange M, <u>Yoshida M</u> , Hazekawa M, Haraguchi T, Nakai Y, Uchida T. 不溶性微粒子の測定や溶解度積の概念に基づき不溶性微粒子生成予測を行い、オザグレルナトリウムとカルシウム製剤の相互作用のリスクを評価した。
15. 味覚センサを用いたムコスタR点眼液UD2%に含有されるレバミピドの苦味評価と飲食物による苦味抑制評価 (査読付)	共	2013年11月	あたらしい眼科, 30(11), 1619-1622	原口珠実、宮崎愛里、吉田都、内田享弘 味覚センサを用い、ムコスタ (R) 点眼液UD2%に含有されるレバミピドの苦味は、コーヒーと同時に服用することで抑制できる可能性を見出した。
16. Comparison of the dissolution rate of ceftriaxone sodium preparations for injection (査読付)	共	2013年11月	Chem. Pharm. Bull. 61(11), 1121-1129	Tange M, Hattori Y, Otsuka M, <u>Yoshida M</u> , Haginaka J, Uchida T. 8種の市販セフトリアキソンナトリウム注射剤 (凍結乾燥品) 間の水への溶解性の差異をX線回折や示差走査熱量測定 (DSC) により検証した。
17. Quantitative evaluation of bitterness of H1-receptor antagonists and masking effect of aceulfame potassium, an artificial sweetener, using a taste sensor (査読付)	共	2013年1月	Sensor and Materials, 25(1), 17-30	Ito M, Wada K, <u>Yoshida M</u> , Hazekawa M, Abe K, Chen R, Habara M, Ikezaki H, Uchida T. H1受容体拮抗薬の苦味強度と人工甘味料アセスルファムナトリウムによる苦味抑制効果について、インセント社センサを用いて定量的に評価した。
18. 女性医療専門職 (薬剤師) を対象とした再就職支援のためのニーズ調査 (査読付)	共	2013年1月	医薬品相互作用研究, 37(1), 9-16	吉田都、栗原 晶子、豊原 朋子、片岡 和三郎、岡村 昇、三木 知博、笠井 眞二、政田 啓子、木下 健司、村田 成範、中林 利克、篠塚 和正、高橋 幸一、市川 厚、上村 直樹、後藤 恵子、宮崎 智、波多江 崇、東海林 徹、内田 享弘 アンケート調査および解析により、大学等の教育機関に対して再就職支援のための教育プログラムの構築・実施が求められていることが明らかとなった。
19. Bitterness evaluation of inta	共	2013年	J. Pharm. Pharmacol.	Haraguchi T, Miyazaki A, <u>Yoshida M</u> , Uchida T.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
ct and crushed VesicareR orally disintegrating tablets using taste sensors (査読付)			65, 980-987	味覚センサを用い、ベシケアROD錠粉碎時の苦味の違いを評価した。強い粉碎は速やかな薬物放出を生じ苦味を発現する可能性が高いことを証明した。
20. Effect of antioxidants on the stability of ONO-1301, a novel long-acting prostacyclin agonist, loaded in PLGA microspheres (査読付)	共	2013年	J. Microencapsul, 30(3), 245-256	Uchida T, Hazekawa M, Morisaki T, <u>Yoshida M</u> , Sakai Y. ONO-1301 PLGAマイクロスフェアを長期保存中に生成される酸化分解物は、抗酸化剤BHT (ブチルヒドロキシトルエン) 添加により完全に抑制できる事実を見出した。
21. Evaluation of the odor of AminolebanR EN, taste-masked with flavoured powders, by human and electronic noses (査読付)	共	2013年	J. Pharm. Pharmacol. 65, 503-511	Haraguchi T, <u>Yoshida M</u> , Uchida T. 専用フレーバー添加によるアミノレバン(R)ENの不愉快な匂いの抑制について、匂いセンサはヒト官能試験と同等の感度で評価が可能であった。
22. Bitterness prediction of H1-antihistamines and prediction of masking effects of artificial sweeteners using an electronic tongue (査読付)	共	2013年	Int. J. Pharm. 441(1-2), 121-127	Ito M, Ikehama K, Yoshida K, Haraguchi T, <u>Yoshida M</u> , Wada K, Uchida T. アルファ・モス社の味覚センサを用いて、H1受容体拮抗薬の苦味と人工甘味料の苦味抑制をセンサ測定値の主成分分析に基づく新規手法で評価した。
23. Prediction of the stability of imipenem in intravenous mixtures (査読付)	共	2013年	Chem. Pharm. Bull, 61(1), 1-7	<u>Yoshida M</u> , Takasu Y, Shimizu K, Asahara K, Uchida T. 温度やpHの影響を加味した亜硫酸水素ナトリウムを含む輸液混合液中での抗菌薬イミペネムの安定性の予測式を誘導し、その予測性について検証した。
24. A novel long-acting prostacyclin agonist (ONO-1301) with an angiogenic effect: promoting synthesis of hepatocyte growth factor and increasing cyclic AMP concentration via IP-receptor signaling (査読付)	共	2013年	J Pharmacol Sci. 123, 392-401	Uchida T, Hazekawa M, <u>Yoshida M</u> , Matsumoto K, Sakai Y. ONO-1301は、IP受容体を介したcyclic AMP濃度の上昇と肝細胞増殖因子の生成促進作用を介して血管新生作用を発揮することを証明した。
25. Factors affecting the bitterness intensities of ten commercial formulations of ambroxol (査読付)	共	2012年8月	Chem. Pharm. Bull, 60(8), 949-954	Uchida T, Sugino Y, Hazekawa M, <u>Yoshida M</u> , Haraguchi T. 市販アンブロキソール錠10製剤の苦味強度に影響を与える因子として、薬物濃度だけでなく、服用する水の温度が影響する事実を見出した。
26. Comparison between original and generic versions of ceftriaxone sodium preparation for injection: compatibility with calcium-containing product (査読付)	共	2012年4月	Chem. Pharm. Bull., 60(4), 429-434	Tange M, <u>Yoshida M</u> , Nakai Y, Uchida T. セフトリアキソンナトリウム注射剤の先発品および後発品を対象にカルシウム含有製剤との併用時における配合変化の程度の違いを比較検討した。
27. The effect of treatment with a sustained-release prostacyclin analog (ONO-1301-loaded PLGA microspheres) on short-term memory impairment in rats with transient global cerebral ischemia (査読付)	共	2012年3月	J Microencapsul, 29(3), 211-218	Hazekawa M, Sakai Y, <u>Yoshida M</u> , Haraguchi T, Uchida T. ONO-1301含有PLGAマイクロスフェアを調製し、脳虚血モデルラットを用い、マイクロスフェア製剤の単回投与の短期記憶の改善作用を明らかにした。
28. 注射剤の配合変化による微粒子析出について—フェニトインナトリウム注およびセフトリアキソンナトリウム注の事例— (査読付)	共	2012年	日本注射薬臨床情報学会誌, 1, 21-31	内田享弘、中井由佳、丹下美緒、吉田都 フェニトインナトリウム注およびセフトリアキソンナトリウム注の配合変化により生じる不溶性微粒子生成に与える因子について精査した。
29. Single injection of ONO-1301-loaded PLGA microspheres directly after ischemia reduces ischemic damage in rats subjected to middle cerebral artery occlusion (査読付)	共	2012年	J. Pharm. Pharmacol, 64, 353-359	Hazekawa M, Sakai Y, <u>Yoshida M</u> , Haraguchi T, Uchida T. 一過性の脳虚血ラットを用い、脳梗塞後急性期において、ONO-1301含有PLGAマイクロスフェア製剤単回投与の脳保護薬としての有用性を明らかにした。
30. Synergistic effect of sour taste and low temperature in suppression the bitterness of Aminoleban(R) EN (査読付)	共	2011年5月	Chem. Pharm. Bull, 59(5), 536-540	Haraguchi T, <u>Yoshida M</u> , Hazekawa M, Uchida T. アミノレバン(R)ENの苦味に対して、酸味添加と低温水での服用が相乗的に苦味抑制効果をもつことを官能試験と味センサを用いて定量的に評価した。
31. Influence of Swallowing Aids on the Adsorption and Palatability of Kremezin(R) (査読付)	共	2011年4月	Chem. Pharm. Bull, 59(4), 434-437	<u>Yoshida M</u> , Hazekawa M, Haraguchi T, Uchida T. 嚥下補助製剤と併用時のクレメジン(R)細粒の服用性の改善効果をSD法を用いた因子分析で評価した。水分散性の改善もメスリンダー法で検証できた。
32. Preparation of ONO-1301-loaded PLGA microspheres and their effect on nerve conduction velocity (査読付)	共	2011年	J. Pharm. Pharmacol, 63, 362-368	Hazekawa M, Sakai Y, <u>Yoshida M</u> , Haraguchi T, Morisaki T, Uchida T. 最適化した平均粒子径約30 μmのONO-1301含有PLGAMSが、糖尿病モデルラットにおいて優れた末梢神経障害改善効果を持つ事実を明らかにした。
33. クレメジンR細粒・後発品の製剤学的特性と服用性の評価 (査読付)	共	2011年	新薬と臨床, 60(8), 1548-1553	内田享弘、吉田都 クレメジン(R)細粒の先発品および後発品の品質について、製剤学的特性の視点から評価し、SD法により服用性に影響を与える複数因子の抽出に成功した。
34. Bitterness evaluation of H1-re	共	2011年	Sensors & Materials,	Ito M, <u>Yoshida M</u> , Kobayashi Y, Hiraoka M, Ike

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
ceptor antagonists using a taste sensor (査読付)			23(8), 483-492	zaki H, Uchida T. 味覚センサを用い、H1受容体拮抗薬の苦味を評価した。センサ膜ANOとBTOの出力の違いを主成分分析結果より比較し、BTOの有用性を明らかにした。
35. Neuroprotective effect of a prostacyclin agonist (ONO-1301) with thromboxane synthase inhibitory activity in rats subjected to cerebral ischemia (査読付)	共	2011年	Pharmacol. & Pharm, 2, 306-314	Hazekawa M, Sakai Y, <u>Yoshida M</u> , Haraguchi T, Uchida T. 脳虚血を施したラットにおけるONO-1301の脳保護作用を、脳組織学的評価であるPCNA, GFP染色と脳組織学的評価であるモリス水迷路試験から評価した。
36. A New Method for Evaluating the Bitterness of Medicines in Development Using a Taste Sensor and a Disintegration Testing Apparatus (査読付)	共	2010年8月	Chem. Pharm. Bull., 58(8), 1009-1014	Tsutomu Harada, Takahiro Uchida, <u>Miyako Yoshida</u> , Yoshikazu Kobayashi, Ryuichi Narazaki, and Takayuki Ohwaki. 味覚センサ法と口腔内崩壊錠試験器を用いた評価系を併用することで、医薬品の苦味を多角的に評価する新たな方法を開発した。
37. Bitterness Suppression of the Kampo Medicine 'Orengedokuto' Using Flavoured Jellies (査読付)	共	2010年4月	Chem. Pharm. Bull., 58(4), 449-453	<u>Miyako Yoshida</u> , Emi Tokuyama, Mai Hazekawa, Takahiro Uchida 黄連解毒湯を各種呈味のフレーバー付ゼリーで服用する場合の苦味抑制効果についてSD法、官能試験、味センサ法を用いて定量的に評価した。
38. Prediction of incompatibility of ceftriaxone sodium with calcium ions using the ionic product (査読付)	共	2010年1月	YAKUGAKU ZASSHI, 130(1), 95-102	Nakai, Y., Tokuyama, E., <u>Yoshida, M</u> , Uchida, T. 注射剤セフトリアキソンナトリウムとカルシウムイオンの配合変化について、イオン積を用いて沈殿物重量および不溶性微粒子数を予測した。
39. 武庫川女子大学薬学研究科昼夜開講(社会人)大学院におけるPhaSeal(R) systemを用いた模擬抗がん剤調製実習プログラム (査読付)	共	2010年	医療薬学, 36(5), 328-334	樋川舞、原口珠実、岡田祥恵、 <u>吉田都</u> 、内田享弘 本学昼夜開講大学院の実習で実施したPhaSeal(R) systemを用いた模擬抗がん剤調製実習のプログラム紹介とアンケートによりその教育効果を検証した論文。
40. Optimization study for the dilution of phenytoin sodium injection: safe administration in clinical practice (査読付)	共	2009年6月	Asian J. Pharm. Sci., 4(6):324-330	Yuka Nakai, Emi Tokuyama, Keiichi Asahara, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida. 医療現場での安全な投与のために、フェニトイン注射剤の希釈濃度の最適化するため光遮蔽型自動微粒子測定装置およびHPLC法を用いて評価した。
41. 新しいアムロジンROD錠(SUITAB-NEXR/アムロジピン口腔内崩壊錠)の服用性の定量評価(査読付)	共	2009年5月	「新薬と臨床」, 58(5), 54-62	内田享弘、徳山絵生、 <u>吉田都</u> 新製剤のアムロジンROD錠を用いて服用性をインセント社およびAlpha MOS社の二種の味センサで定量的に評価し、改良製剤での苦味抑制を確認した。
42. Famotidine orally disintegrating tablets: bitterness comparison of original and generic products (査読付)	共	2009年4月	Chem. Pharm. Bull., 57(4), 382-387	Tokuyama E, Matsunaga C, Yoshida K, Mifsud JC, Irie T, <u>Yoshida M</u> , Uchida T. ファモチジン口腔内崩壊錠の先発品と後発品の溶出液について、味センサ(Alpha MOS)を用いた主成分分析、HPLC法、ヒト官能試験により評価した。
43. RAPID INFUSION OR DILUTION IS EFFECTIVE IN REDUCING PHLEBITIS CAUSED (査読付)	共	2009年3月	Asian J. Pharm. Sci., 4(3):1-6	Setsuko Anami, Mayumi Nisikata, Kenji Matsuyama, Takashi Kuwahara, Yukiko Murata, <u>Miyako Yoshida</u> , and Takahiro Uchida. エピルピシン投与時に生じる静脈炎に関して点滴静注時のエピルピシン溶液濃度及び点滴速度の効果をウサギ介耳静脈病理組織から評価した。
44. Incompatibility of ceftriaxone sodium with calcium-containing Products (査読付)	共	2009年11月	YAKUGAKU ZASSHI, 129(11), 1385-1392	Yuka Nakai, Emi Tokuyama, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida セフトリアキソンとカルシウムの沈殿反応に対するカルシウム濃度、保存温度、振とうの影響を光遮蔽型自動微粒子測定装置と顕微鏡を用いて評価した。
45. 注射剤の配合変化によるリスクの回避—注射用セフトリアキソンナトリウムとカルシウム含有製剤の配合変化を例にして—(査読付)	共	2009年	静脈経管栄養, 24(6), 5-11	中井由佳、徳山絵生、 <u>吉田都</u> 、内田享弘 セフトリアキソンイオンとカルシウムイオンによる沈殿物形成に及ぼす保存温度、振とうの影響を光遮蔽型自動微粒子測定装置を用いて評価した。
46. クラリスロマイシンドライシロップ製剤の酸性スポーツ飲料併用時およびムコダイン(R)DS併用時の苦味予測(査読付)	共	2009年	医療薬学, 36(4), 262-269	樋川舞、盛崎友美、藤井香保里、丹下美緒、原口珠実、 <u>吉田都</u> 、内田享弘 クラリスロマイシンドライシロップ(CAMDS)と酸性スポーツ飲料またはムコダイン(R)DSを併用する場合の苦味強度を簡易溶出法により得られた薬物濃度より予測した。
47. A new acylphloroglucinol glycoside from Solidago altissima L (査読付)	共	2008年2月	Nat Med (Tokyo), 62(2):199-201	Haili Jin, Keiko Ogino, Toshihiro Fujioka, <u>Miyako Yoshida</u> , Kanji Ishimaru Solidago altissimaよりacylphloroglucinol glycosideを抽出し、構造決定した。
48. 経口苦味マスキング製剤の品質評価(査読付)	共	2008年11月	月刊薬事, 57(11) 1701-1708	内田享弘、徳山絵生、 <u>吉田都</u> 、奥原有希子 ドライシロップ、口腔内崩壊錠、経腸栄養剤などの苦味マスキング製剤について、種々の角度から品質を評価した成果について紹介した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
49. A new chalcone glycoside from <i>Sapium sebiferum</i> (査読付)	共	2007年	J. Nat. Med., 61, 339-341	Sumei Huang, Toshihiro Fujioka, <u>Miyako Yoshida</u> , Kanji Ishimaru Sapium sebiferumより新規chalcone glycosideを抽出し、構造決定した。
50. Preparation and In Vivo Evaluation of a Water-soluble Prodrug for 2R- gamma-Tocotrienol and as a Two-step Prodrug for S-gamma -CEHC in Rat (査読付)	共	2007年	Drug Metab. Dispos. 35(9), 1502-1510	Nami Akaho, Jiro Takata, Takeshi Fukushima, Kazuhisa Matsunaga, Akihiro Hattori, Ryoji Hidaka, Kosuke Fukui, <u>Miyako Yoshida</u> , Toshihiro Fujioka, Yoshiharu Karube, Kazuhiro Imai ラットを用いて、2R- gamma-Tocotrienol とS-gamma -CEHCのプロドラッグの薬理効果を評価した。
51. 中国産健康食品「Qiao Qi Jiao Nang」とグリメピリド併用による低血糖 (査読付)	共	2006年	医療薬学, 32(5), 407-413	神村英利, 吉田都, 富永博之, 宮崎悟, 藤岡稔大, 佐々木悠, 加留部善晴 中国産健康食品「Qiao Qi Jiao Nang」とグリメピリド併用により低血糖症状があらわれた。その理由として、「Qiao Qi Jiao Nang」中に糖尿病治療薬が含まれている可能性を示した。
52. Antiproliferative Constituents from Umbelliferae Plants. IX. New Triterpenoid Glycosides from the Fruits of <i>Bupleurum rotundifolium</i> (査読付)	共	2006年	Chem. Pharm. Bull., 54(12), 1694-1704	Toshihiro Fujioka, Keisuke Yoshida, Hiroko Shiba, Tsuneatsu Nagao, <u>Miyako Yoshida</u> , Kazuhisa Matsunaga, Jiro Takata, Yoshiharu Karube, Yuki ko Iwase, Hikaru Okabe, Kunihide Mihashi <i>Bupleurum rotundifolium</i> の果実に含まれるTriterpenoid Glycosides の抗腫瘍活性を評価した。
53. 自然発症2型糖尿病モデルラットに対するココナッツ酵素製剤の抗糖尿病作用(査読付)	共	2006年	機能性食品と薬理栄養, 3(4), 285-290	江頭伸昭, 溝上裕子, 高垣祐紀, 西田翔, 吉田都, 藤岡稔大, 三島健一, 岩崎克典, 中村陽介, 持田肇, 藤原道弘 自然発症2型糖尿病モデルラットに対して、ココナッツ酵素製剤が抗糖尿病作用を示すことが見いだされた。
54. セイタカアワダチソウの組織培養とポリフェノール類生産(査読付)	共	2006年	日本食品化学学会誌13(3), 136-140	金海麗, 田中隆, 河野功, 藤岡稔大, 吉田都, 石丸幹二 セイタカアワダチソウの組織培養し、ポリフェノール類生産することが明らかとなった。
55. <i>Hemiphargma heterophyllum</i> の組織培養と二次代謝物生産 (査読付)	共	2006年	日本食品化学学会誌, 13(1), 29-34	森暁美, 藤岡稔大, 吉田都, 穴井豊昭, 石丸幹二 <i>Hemiphargma heterophyllum</i> の組織培養し、二次代謝物の構造決定を行った。
56. Effect of Haloperidol on mPer1 Gene Expression in Mouse Suprachiasmatic Nuclei (査読付)	共	2005年	J. Biol. Chem., 280(8), 6309-6315	Viyoch, Naoya Matsunaga, <u>Miyako Yoshida</u> , Hide to To, Shun Higuchi, Shigehiro Ohdo マウスのSuprachiasmatic NucleiにおけるmPer1発現に及ぼすハロペリドールの影響について検討した論文。
57. Antiproliferative Constituents from Umbelliferae Plants VII. Active Triterpenes and Rosmarinic Acid from <i>Centella Asiatica</i> (査読付)	共	2005年	Biol. Pharm. Bull., 28(1), 173-175	<u>Miyako Yoshida</u> , Masahiro Fuchigami, Tsuneatsu Nagao, Hikaru Okabe, Kazuhisa Matsunaga, Jiro Takata, Yoshiharu Karube, Ryota Tsuchihashi, Jun ei Kinjyo, Kunihide Mihashi, Toshihiro Fujioka <i>Centella Asiatica</i> より得られたTriterpenesやRosmarinic Acidが抗腫瘍活性を示すことが認められた。
58. 植物ポリフェノール-豆由来タンパク質複合体の調製と機能性 (査読付)	共	2004年	日本食品科学工学会誌, 51(11), 626-632	黄素梅, 重富宣雄, 田中章江, 寺原典彦, 藤岡稔大, 吉田都, 石丸幹二 植物ポリフェノール-豆由来タンパク質複合体の調製し、機能性を評価した。

その他

1. 学会ゲストスピーカー

2. 学会発表

1. Evaluation the palatability of ebastine orally disintegrating tablets using	共	2015年7月25日～29日	CRS	Takahiro Uchida, Tamami Haraguchi, <u>Miyako Yoshida</u>
2. 医薬品-苦味マスキング剤間の分子間相互作用解析	共	2015年5月21日～23日	日本薬剤学会第30年会	原口珠実, 中村早貴, 白石早祐子, 小島穂菜美, 吉田都, 内田享弘
3. 電子味覚システムを用いた医薬品の味質分類評価	共	2015年5月21日～23日	日本薬剤学会第30年会	中村早貴, 原口珠実, 白石早祐子, 小島穂菜美, 吉田都, 内田享弘
4. 味覚センサを用いたゾピクロンおよびエスゾピクロンの苦味評価	共	2015年3月25日～28日	日本薬学会第135年会	吉田都, 宇田篤史, 原口珠実, 樫川舞, 内田享弘, 山本和宏, 平野剛, 平井みどり
5. 味覚センサを用いたガストログラフインの味評価と飲料混合時の味変化の予測	共	2015年3月25日～28日	日本薬学会第135年会	原口珠実, 吉田都, 内田享弘
6. 小児用製剤の服用性評価	共	2015年3月25日～	日本薬学会第135年会	内田享弘, 吉田都, 原口珠実, 樫川舞
7. 自己修復を利用したOVA含有PLGAマイクロスフェア製剤の初期バースト抑	共	2015年3月25日～28日	日本薬学会第135年会	樫川舞, 原口珠実, 吉田都, 内田享弘

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
8. 味覚センサを用いた複合剤の苦味予測	共	2015年11月21日～23日	第25回日本医療薬学会年会	原口珠実, 中村早貴, 白石早祐子, 竹下華子, 小島穂菜美, 吉田都, 内田享弘
9. クラリスロマイシンドライシロップの品質評価	共	2015年11月21日～23日	第25回日本医療薬学会年会	小島穂菜美, 福留夢姫, 松本早織, 原口珠実, 吉田都, 内田享弘
10. Interaction analysis between drug and taste masking agent by surface plasmon resonance (SPR)	共	2015年10月25日～29日	AAPS annual meeting	Tamami Haraguchi, Saki Nakamura, Sayuko Shiraihi, Honami Kojima, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida
11. Classification the quality of taste in drugs by principal component analysis (PCA) using taste sensor outputs	共	2015年10月25日～29日	AAPS annual meeting	Saki Nakamura, Tamami Haraguchi, Sayuko Shiraihi, Honami Kojima, <u>Miyako Yoshida</u> , Masaaki Haraba, Hidekazu Ikezaki, Takahiro Uchida
12. The role of an impurity in ceftriaxone sodium preparation for injection in determining compatibility with calcium-containing solutions	共	2015年10月25日～29日	AAPS annual meeting	Mio Tange, Tamami Haraguchi, Honami Kojima, <u>Miyako Yoshida</u> , Yuka Nakai and Takahiro Uchida
13. 医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸由来物質（カフェ酸、キナ酸）の効果	共	2015年10月17日	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会	白石早祐子, 川崎郁勇, 西出喜代治, 中村早貴, 原口珠実, 小島穂菜美, 吉田都, 内田享弘
14. フィルグラスチム製剤の輸液器具への吸着に関する検討	共	2015年10月17日	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会	松本晃乃, 松本美穂, 丹下美緒, 原口珠実, 小島穂菜美, 吉田都, 内田享弘
15. 医薬品合剤に関する現状調査と服用性評価	共	2015年10月17日	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会	福留夢姫, 松本早織, 竹下華子, 奥山あや, 中村早貴, 原口珠実, 小島穂菜美, 吉田都, 内田享弘
16. セフトリアキソンナトリウムとカルシウムの配合変化に及ぼすセフトリアキソン由来雑物の影響	共	2014年9月27日～28日	医療薬学会年会	丹下美緒, 吉田都, 樫川舞, 原口珠実, 内田享弘
17. 服薬アドヒアランス向上を目指した医薬品開発のためのネットワーク構築	共	2014年9月27日～28日	医療薬学会年会	一般シンポジウム オーガナイザー：内田享弘、並木徳之、シンポジスト：吉田都
18. 味覚センサを用いた乳汁の味に及ぼすクリンダマイシンリン酸塩の影響に関する評価	共	2014年9月27日～28日	医療薬学会年会	吉田都, 中井由佳, 原口珠実, 樫川舞, 内田享弘
19. 口腔内崩壊錠の経時的崩壊性評価—市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠10 mgを例にして—	共	2014年6月28日～29日	医療薬学フォーラム	樫川舞, 原口珠実, 吉田都, 内田享弘
20. アミノ酸輸液中におけるメロペネムの安定性に関する検討	共	2014年6月28日～29日	医療薬学フォーラム	丹下美緒, 高子優子, 吉田都, 樫川舞, 原口珠実, 内田享弘
21. PGI2アゴニスト含有自己修復マイクロスフェアの調製と評価	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	樫川舞, 原口珠実, 吉田都, 内田享弘
22. フルボキサミン—クロロゲン酸複合体形成による苦味軽減	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	金光早祐子, 川崎郁勇, 西出喜代治, 吉田都, 内田享弘
23. クロロゲン酸を用いた医薬品の苦味抑制評価	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	原口珠実, 樫川舞, 吉田都, 内田享弘
24. 薬物の苦味によるP-糖タンパクの基質認識性の予測	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	三田鈴音, 矢野健太郎, 荒川大, 原口珠実, 吉田都, 内田享弘, 荻原琢男
25. 味覚センサを用いた医薬品原末のBitterness classification systemの構築	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	吉田都, 樫川舞, 原口珠実, 内田享弘
26. Prediction of the stability of octreotide in a mixed infusion	共	2014年4月26日～27日	第12回日中韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム	Yuko Takasu, <u>Miyako Yoshida</u> , Kaori Shimizu, Keiichi Asahara, Mio Tange, Takahiro Uchida
27. C-Metのダウンレギュレーションを伴わない新規PGI2アゴニスト反復投与の血管新生作用	共	2014年3月27日～30日	日本薬学会第134年会	樫川舞, 松本邦夫, 酒井芳紀, 原口珠実, 吉田都, 内田享弘
28. 味覚センサを用いた降圧薬間の味相互作用評価	共	2014年3月27日～30日	日本薬学会第134年会	吉田都, 原口珠実, 樫川舞, 内田享弘
29. 味覚センサを用いたクロロゲン酸による医薬品の苦味抑制評価	共	2014年3月27日～30日	日本薬学会第134年会	原口珠実, 樫川舞, 吉田都, 内田享弘
30. Evaluation the effect of chlorogenic acid on the bitterness of medicines	共	2014年11月2日～6日	AAPS annual meeting	Tamami Haraguchi, Sayuko Kanemitsu, Mai Hazekawa, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida
31. Bitterness classification system in active pharmaceutical ingredients using taste	共	2014年11月2日～6日	AAPS annual meeting	<u>Miyako Yoshida</u> , Hidekazu Ikezaki, Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Takahiro Uchida
32. 味覚センサを用いた降圧薬組み合わせ時の味相互作用機序の解明	共	2014年10月11日	第64回日本薬学会近畿支部大会	吉田都, 原口珠実, 樫川舞, 内田享弘
33. 味覚センサと分子間相互作用解析によるクロロゲン酸の医薬品苦味抑制機序	共	2014年10月11日	第64回日本薬学会近畿支部大会	原口珠実, 金光早祐子, 吉田都, 樫川舞, 内田享弘

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
34. PGI2アゴニスト含有PLGA自己修復マイクロスフェアの調製に関する検討—初期バーストに及ぼすガラス転移点の影響—	共	2014年10月1日	第64回日本薬学会近畿支部大会	樋川舞, 原口珠実, 吉田都, 内田享弘
35. PLGA自己修復フィルム薬物の放出に関する基礎的検討—初期バーストに及ぼすガラス転移点の影響—	共	2014年10月1日	第64回日本薬学会近畿支部大会	中野愛, 樋川舞, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
36. 味覚センサを用いたNSAIDs(非ステロイド性抗炎症薬)の苦味評価	共	2014年10月1日	第64回日本薬学会近畿支部大会	澤田真緒, 中村早貴, <u>吉田都</u> , 原口珠実, 樋川舞, 内田享弘
37. 「薬と健康フェア」における医薬品および薬物乱用に関するアンケート調査とその解析	共	2013年9月22日～23日	第46回日本薬剤師会学術大会	樋川舞, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘, 牧孝子
38. 人工唾液を用いた市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性の評価	共	2013年9月21日～22日	第23回日本医療薬学会年会	樋川舞, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
39. 味覚センサを用いたムコスタR点眼液UD2%(レバミピド)の苦味評価と飲食物の影響	共	2013年9月21日～22日	第23回日本医療薬学会年会	原口珠実, 宮崎愛里, <u>吉田都</u> , 樋川舞, 内田享弘
40. 口腔内崩壊錠用崩壊試験器(OD-mate)および味覚センサを用いたアムロジピンOD錠10製剤の服用性予測に関する検討	共	2013年9月21日～22日	第23回日本医療薬学会年会	<u>吉田都</u> , 樋川舞, 原口珠実, 内田享弘
41. Bitterness prediction of intact and crushed VesicareR orally disintegrating tablets using taste sensors	共	2013年8月31日～9月5日	FIP	Tamami Haraguchi, Airi Miyazaki, Mai Hazekawa, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida
42. 注射用セフトリアキソンナトリウム製剤の溶解性比較	共	2013年8月31日	第16回日本注射薬臨床情報学会	丹下美緒, 服部祐介, 大塚誠, <u>吉田都</u> , 萩中淳, 内田享弘
43. オクトレオチドの安定性におよぼす亜硫酸水素ナトリウムの影響	共	2013年8月10日～11日	第16回日本医薬品情報学会総会・学術大会	高子優子, <u>吉田都</u> , 樋川舞, 原口珠実, 内田享弘
44. Evaluation of palatability for 10 commercial famotidine orally disintegrating tablets by combination of disintegration apparatus for orally disintegrating tablet and taste sensor	共	2013年7月21日～24日	The 40 th Annual Meeting & Exposition of Controlled Release Society	<u>Miyako Yoshida</u> , Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Takahiro Uchida
45. The angiogenesis effect of a novel long-acting prostacyclin agonist loaded-PLGA microspheres prepared using different molecular weight in murine sponge model	共	2013年7月21日～24日	The 40 th Annual Meeting & Exposition of Controlled Release Society	Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida
46. 味覚センサを用いた酸性医薬品の苦味評価	共	2013年5月23日～25日	日本薬剤学会第28年会	<u>吉田都</u> , 原口珠実, 樋川舞, 内田享弘
47. ONO-1301含有PLGAマイクロスフェア製剤の血管新生効果	共	2013年5月23日～25日	日本薬剤学会第28年会	樋川舞, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
48. 味覚センサとOD-mateを用いたエバスタチン口腔内崩壊錠の苦味評価	共	2013年5月23日～25日	日本薬剤学会第28年会	原口珠実, <u>吉田都</u> , 樋川舞, 内田享弘
49. 口腔内崩壊錠用崩壊試験器および味認識測定装置を組み合わせたファモチジンOD錠10製剤の苦味予測	共	2013年3月27日～30日	日本薬学会第133年会	<u>吉田都</u> , 樋川舞, 原口珠実, 内田享弘
50. 味覚センサによるムコスタR点眼液UD2%使用時の苦味軽減可能な飲食物の探索	共	2013年3月27日～30日	日本薬学会第133年会	宮崎愛里, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
51. マウスポンジ移植モデルを用いたPGI2アゴニストONO-1301の血管新生作用機序の検討	共	2013年3月27日30	日本薬学会第133年会	樋川舞, 森畑佳奈, 松本邦夫, 酒井芳紀, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
52. 注射用セフトリアキソンナトリウム製剤間の溶解性比較	共	2013年3月27日～30日	日本薬学会第133年会	丹下美緒, 服部祐介, 大塚誠, <u>吉田都</u> , 萩中淳, 内田享弘
53. Screening of refreshments which suppress the bitterness of rebamipide contained in Mucostar ophthalmic suspension UD2% using taste sensor	共	2013年11月10日～14日	AAPS annual meeting	Takahiro Uchida, Tamami Haraguchi, Airi Miyazaki, <u>Miyako Yoshida</u> , Mai Hazekawa
54. 苦味センサーを用いたP-糖タンパクの基質認識性の解析	共	2013年10月26日	第57回日本薬学会関東支部大会	三田鈴音, 矢野健太郎, 荒川大, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘, 萩原琢男
55. 味覚センサを用いたNSAIDsの苦味評価—苦味マスキング効果の評価への応用—	共	2013年10月21日	第63回日本薬学会近畿支部大会	<u>吉田都</u> , 原口珠実, 樋川舞, 内田享弘
56. アミノレバンREN配合散服用時の苦味軽減に関する検討—酸味と低温による相乗的苦味抑制効果—	共	2013年10月21日	第63回日本薬学会近畿支部大会	原口珠実, <u>吉田都</u> , 樋川舞, 内田享弘





研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
82. 注射用セフトリアキソンナトリウム製剤の配合変化におよぼす振とうの影響	共	2011年5月28日～30日	日本薬剤学会第26年会	丹下美緒、 <u>吉田都</u> 、櫛川舞、原口珠実、内田享弘
83. 中大脳動脈閉塞モデルを用いたON0-1301 PLGA MS製剤単回投与の脳保護効果の検討	共	2011年5月28日～30日	日本薬剤学会第26年会	櫛川舞、酒井芳紀、 <u>吉田都</u> 、原口珠実、内田享弘
84. ロセフィンR静注用と後発医薬品におけるカルシウム含有製剤との配合変化について	共	2011年3月28日～31日	第131年会日本薬学会	丹下美緒、 <u>吉田都</u> 、櫛川舞、原口珠実、内田享弘
85. 武庫川女子大学における長期実務実習に関するアンケート調査	共	2011年3月28日～31日	第131年会日本薬学会	<u>吉田都</u> 、櫛川舞、原口珠実、土本寛子、中野えり子、くわ原晶子、豊原朋子、片岡和三郎、波多江崇、東海林徹、内田享弘、市川 厚
86. ラット繰り返し脳虚血モデルを用いたON0-1301の活性化アストロサイトの抑制を介した脳保護効果の検討	共	2011年3月28日～31日	第131年会日本薬学会	盛崎友美、櫛川 舞、酒井芳紀、原口珠実、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
87. The effect of treatment with a sustained-release prostacyclin analog (ON0-1301-loaded PLGA microspheres) on short-term memory impairment in rats with transient global cerebral ischemia	共	2011年10月23日～27日	AAPS annual meeting	Mai Hazekawa, Yoshiki Sakai, Tomomi Morisaki, Tamami Haraguchi, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida
88. Incompatibility of ROCEPHINER Intravenous and Generic Versions with Calcium-containing Products	共	2011年10月23日～27日	AAPS annual meeting	Mio Tange, <u>Miyako Yoshida</u> , Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi and Takahiro Uchida
89. ON0-1301含有PLGAマイクロスフェアの糖尿病性末梢神経障害への適用	共	2011年10月1日～2日	第21回日本医療薬学会年会	盛崎友美、櫛川舞、酒井芳紀、原口珠実、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
90. 温度を加味した市販アムロキソール錠の苦味予測	共	2011年10月1日～2日	第21回日本医療薬学会年会	櫛川舞、杉野友香、原口珠実、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
91. 平成22年度武庫川女子大学長期実務実習に関するアンケート調査	共	2011年10月1日～2日	第21回日本医療薬学会年会	<u>吉田都</u> 、櫛川舞、原口珠実、土本寛子、くわ原晶子、豊原朋子、片岡和三郎、波多江崇、東海林徹、内田享弘、市川 厚
92. アムロジピンOD錠の苦味評価 -崩壊性および溶出性について	共	2010年5月12日～14日	日本薬剤学会第25年会	櫛川舞、 <u>吉田都</u> 、原口珠実、内田享弘
93. イミペネムの安定性におよぼす亜硫酸水素ナトリウムの影響	共	2010年5月12日～14日	日本薬剤学会第25年会	清水香織、 <u>吉田都</u> 、櫛川舞、原口珠実、内田享弘
94. アムロキソール錠10製剤の苦味に及ぼす溶出性と崩壊性の影響	共	2010年5月12日～14日	日本薬剤学会第25年会	杉野友香、櫛川舞、原口珠実、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
95. Educational Program of Preparation of Simulated Anticancer Agents Using PhaSealRas a closed system for graduate Students in Mukogawa Women's University	共	2010年4月24日～25日	第9回日韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム	<u>Miyako Yoshida</u> , Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Takahiro Uchida
96. 溶解度の理論予測に基づいたフェニトインナトリウム注射液の最適希釈法の検討	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会	中井由佳、徳山絵生、浅原慶一、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
97. クレメジンR細粒の吸着性および服用性に対する嚥下補助製品の影響	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会	<u>吉田都</u> 、原口珠実、櫛川舞、内田享弘
98. 簡易溶出法を用いたアムロキソール錠10製剤の苦味予測	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会	杉野友香、櫛川舞、原口珠実、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
99. アミノレバンREN専用フレーバーの矯臭効果に関する検討	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会	原口珠実、 <u>吉田都</u> 、櫛川舞、内田享弘
100. 小児用ムコソルバンRDS 1.5%、嚥下補助ゼリーによるタミフルRカプセル75内容物の苦味抑制	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会2010.3.28-30	櫛川舞、原口珠実、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
101. The influence of the flavored powders on the unpleasant odors of AminolebanREN, the nutritional products for liver failure	共	2010年11月4日～18日	PSWC	<u>Miyako Yoshida</u> , Tamami Haraguchi, Mai Hazekawa, Takahiro Uchida
102. The influence of the solvent temperature on bitterness threshold of AminolebanREN	共	2010年11月4日～18日	PSWC	Tamami Haraguchi, <u>Miyako Yoshida</u> , Mai Hazekawa, Takahiro Uchida
103. アムロキソール錠10製剤の苦味強度に及ぼす温度の影響-溶出量と苦味閾値の関与について-	共	2010年11月3日～14日	第40回医療薬学会年会	杉野友香、櫛川舞、原口珠実、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
104. 味覚センサを用いたアムロジピン	共	2010年11月1	第40回医療薬学会年会	内田享弘、櫛川舞、 <u>吉田都</u> 、原口珠実

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
OD錠10製剤の苦味予測		3日～14日		
105. クラリスロマイシン製剤の苦味に及ぼすカルボシステイン製剤またはアンブロキシソール製剤のpHの影響	共	2010年11月13日～14日	第40回医療薬学会年会	樋川舞, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
106. ベシケアR錠粉砕品服用時の味マスキングに関する検討	共	2010年10月30日	第60回日本薬学会近畿支部大会	原口珠実, <u>吉田都</u> , 樋川舞, 内田享弘
107. クレメジンR細粒の吸着性と服用性に関する検討	共	2010年10月30日	第60回日本薬学会近畿支部大会	<u>吉田都</u> , 原口珠実, 樋川舞, 内田享弘
108. 「薬と健康フェア」における医薬品およびインフルエンザ対策に関するアンケート調査とその解析	共	2010年10月10日～11日	第43回日本薬剤師会学術大会	樋川舞, 丹下美緒, 盛崎友美, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘, 金森隆一, 田中浩一
109. 局所持続型ON0-1301 PLGA MSの調製とその神経伝達速度改善効果	共	2009年5月21日	日本薬剤学会第24年会	樋川舞, 酒井芳紀, 嶽本絵理, <u>吉田都</u> , 内田享弘
110. アムロジピン口腔内崩壊錠の服用性の評価	共	2009年5月21日	日本薬剤学会第24年会	内田享弘, 徳山絵生, 樋川舞, <u>吉田都</u>
111. 肝不全栄養剤アミノレバンENの苦味および臭みマスキング効果に関する検討	共	2009年5月21日	日本薬剤学会第24年会	<u>吉田都</u> , 樋川舞, 原口珠実, 内田享弘
112. Prediction of interaction of Ceftriaxone and calcium ion using ionic strength	共	2009年4月18日～19日	第8回日韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム	Yuka Nakai, Emi Tokuyama, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida
113. アンブロキシソール錠 (10製剤) 内服時の苦味予測に関する検討	共	2009年3月26日～28日	日本薬学会第129年会	樋川舞, 徳山絵生, <u>吉田都</u> , 内田享弘
114. 肝不全栄養剤アミノレバンENの苦味・においにおよぼす専用フレーバーの影響	共	2009年3月26日～28日	日本薬学会第129年会	<u>吉田都</u> , 徳山絵生, 樋川舞, 内田享弘
115. イオン積を利用したロセフィンR静注用とカルシウムの配合変化の予測	共	2009年3月26日～28日	日本薬学会第129年会	徳山絵生, 中井由佳, <u>吉田都</u> , 浅原慶一, 内田享弘
116. クラリスロマイシンドライシロップとカルボシステインドライシロップ同時服用時の苦味・後味の軽減法	共	2009年3月26日～28日	日本薬学会第129年会	内田享弘, 樋川舞, 徳山絵生, <u>吉田都</u>
117. Preparation of ON0-1301-loaded PLGA microsphere and improvement effect in nerve conduction velocity	共	2009年11月8日～12日	AAPS	Mai Hazekawa, Yoshiki Sakai, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida
118. クラリスロマイシンドライシロップ製剤の酸性スポーツ飲料併用時及びムコダインRDS併用時の苦味予測	共	2009年11月4日～15日	第3回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム	杉野友香, 樋川舞, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
119. アミノレバンRENの苦味閾値におよぼす温度の影響	共	2009年11月4日～15日	第3回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム	原口珠実, <u>吉田都</u> , 樋川舞, 内田享弘
120. Circadian variation in $\mu$ -opioid receptor function in the brainstem was operated by manipulation of the 24-hr variation in circulating glucocorticoid levels through time-restricted feeding	共	2009年10月27日	第16回日本時間生物学会学術大会 (3学会合同大会)	Tamami Haraguchi, <u>Miyako Yoshida</u> , Mai Hazekawa, Takashi Fujioka, Naoya Matsunaga, Satoru Koyanagi, Takahiro Uchida, Shigehiro Ohdo
121. Glucocorticoid hormone regulates the circadian coordination of $\mu$ -opioid receptor expression in mouse brainstem	共	2009年10月27日	第16回日本時間生物学会学術大会 (3学会合同大会)	<u>Miyako Yoshida</u> , Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Eriko Ikeda, Naoya Matsunaga, Satoru Koyanagi, Takahiro Uchida, Shigehiro Ohdo
122. アミノレバンRENの苦味閾値におよぼす温度の影響	共	2009年10月24日	第59回日本薬学会近畿支部総会・大会	原口珠実, <u>吉田都</u> , 樋川舞, 内田享弘
123. クレメジン細粒の吸着性と服用性におよぼす市販嚥下補助ゼリーの影響	共	2009年10月24日～26日	第19回日本医療薬学会年会	内田享弘, 原口珠実, 樋川舞, <u>吉田都</u>
124. クラリスロマイシンDSの粒度別評価	共	2009年10月24日～26日	第19回日本医療薬学会年会	樋川舞, 盛崎友美, 藤井香保里, 丹下美緒, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
125. アンブロキシソール錠10製剤の苦味評価: 温度の影響	共	2009年10月24日～26日	第19回日本医療薬学会年会	杉野友香, 樋川舞, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘
126. クレメジンR細粒の吸着性と服用性におよぼす嚥下補助製品の影響	共	2009年10月24日	第59回日本薬学会近畿支部総会・大会	<u>吉田都</u> , 原口珠実, 樋川舞, 内田享弘
127. 「薬と健康フェア」における医薬品に関するアンケート調査とその解析	共	2009年10月1日～12日	第24回日本薬剤師会学術大会	樋川舞, 丹下美緒, 藤井香保里, 盛崎友美, 原口珠実, <u>吉田都</u> , 内田享弘, 西脇昌子, 田中浩一
128. 速崩壊型錠剤をどう取り扱うべき	共	2008年9月20日	第18回日本医療薬学会	内田享弘, 奥原有希子, 徳山絵生, <u>吉田都</u>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
か？ー薬剤師を対象にした速崩壊型錠剤		日	年会	
129. クラリスロマイシンドライシロップ12製剤の品質評価ー含量均一性と服用性の評価ー	共	2008年9月20日	第18回日本医療薬学会年会	樫川舞、 <u>吉田都</u> 、徳山絵生、石坂敏彦、向井淳治、内田享弘
130. 味覚センサを用いた後発品・先発品の服用性評価	共	2008年9月20日	第18回日本医療薬学会年会	徳山絵生、樫川舞、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
131. 漢方薬服用ゼリーによる服用性の改善効果	共	2008年9月20日	第18回日本医療薬学会年会	<u>吉田都</u> 、徳山絵生、樫川舞、内田享弘、福居篤子、藤井隆太、砂田久一
132. Inhibitory effect of aroma on the bitterness of branched-chain amino acid solutions	共	2008年8月30日	FIP (国際薬学連合) 第68年会	Emi Tokuyama, Junji Mukai, Mai Hazekawa, <u>Miyako Yoshida</u> , and Takahiro Uchida
133. Interaction study of Rocephin (ceftriaxone) with calcium-containing products	共	2008年8月30日	FIP (国際薬学連合) 第68年会	Yuka Nakai, Emi tokuyama, Toshihiko Ishizaka, <u>Miyako Yoshida</u> , Takahiro Uchida
134. Inhibitory Effect of Aroma on the Bitterness of the branched-chain amino acid solutions	共	2008年4月19日～20日	The 7 th Korea-Japan Joint Symposium for Clinical Information on Parenteral Drugs	Takahiro Uchida, Junichi Mukai, Mai Hazekawa, <u>Miyako Yoshida</u> , Emi Tokuyama
135. セイタカアワダチソウのポリフェノール成分	共	2008年3月26日	日本薬学会第128年会	志岐寿子, 原口那津美, 瀧野良子, 藤岡稔大, <u>吉田都</u> , 金海麗, 石丸幹二
136. イオン積を利用したロセフィンR静注用とカルシウムの配合変化の予測	共	2008年11月29日	第11回日本注射薬臨床情報学会	徳山絵生、中井由佳、 <u>吉田都</u> 、浅原慶一、内田享弘
137. 肝不全栄養剤専用フレーバーの苦味・臭み抑制効果	共	2008年10月25日	第58回日本薬学会近畿支部総会・大会	<u>吉田都</u> 、徳山絵生、樫川舞、内田享弘
138. 昼夜開講大学院における抗がん剤取り扱い手技に関する実習の意義	共	2008年10月25日	第58回日本薬学会近畿支部総会・大会	樫川舞、徳山絵生、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
139. 味センサを利用した苦味マスキング製剤の評価	共	2008年10月25日	第58回日本薬学会近畿支部総会・大会	内田享弘、徳山絵生、 <u>吉田都</u> 、樫川舞
140. BCAAの苦味と各種香料の匂いとの相互作用ープロビット法による苦味閾値の測定ー	共	2008年05月20日	日本薬剤学会第23年会	<u>吉田都</u> 、岡田祥恵、向井淳治、徳山絵生、樫川舞、内田享弘
141. SD法を用いたファモチジン口腔内崩壊錠の服用性評価	共	2008年05月20日	日本薬剤学会第23年会	徳山絵生、熊谷智香、樫川舞、 <u>吉田都</u> 、内田享弘
142. 塩基性アミノ酸の苦味・渋味抑制効果に関する基礎的検討	共	2008年05月20日	日本薬剤学会第23年会	内田享弘、熊谷智香、徳山絵生、樫川舞、 <u>吉田都</u>
143. エリンギウムの炎症性疼痛に及ぼす影響 (その2)	共	2008年03月26日	日本薬学会第128年会	辛島紀子, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大
144. ケールの糖尿病におよぼす影響 (その4)	共	2008年03月26日	日本薬学会第128年会	吉村友希, <u>吉田都</u> , 中島文, 西田翔, 黒川美保子, 藤岡稔大
145. クチナシの糖尿病におよぼす影響 (その2)	共	2008年03月26日	日本薬学会第128年会	<u>吉田都</u> , 寺田浩章, 竹田良三, 藤岡稔大
146. 糖尿病が生体リズムに及ぼす影響	共	2007年12月9日	第24回日本薬学会九州支部大会	久保田知佳, 藏元佑嘉子, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大, 添田泰司, 占野廣司
147. 生体エネルギー代謝に及ぼす概日リズム変化の影響	共	2007年12月9日	第24回日本薬学会九州支部大会	元流梨恵, 藏元佑嘉子, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大, 添田泰司, 占野廣司
148. エリンギウムの炎症性疼痛に及ぼす影響	共	2007年12月9日	第24回日本薬学会九州支部大会	辛島紀子, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大
149. ケールの糖尿病におよぼす影響 (その3)	共	2007年12月9日	第24回日本薬学会九州支部大会	吉村友希, <u>吉田都</u> , 中島文, 西田翔, 黒川美保子, 藤岡稔大
150. クチナシの糖尿病におよぼす影響	共	2007年03月28日	日本薬学会第127年会	上田展也, <u>吉田都</u> , 寺田浩章, 竹田良三, 藤岡稔大
151. ケールの糖尿病におよぼす影響 (その2)	共	2007年03月28日	日本薬学会第127年会	吉村友希, <u>吉田都</u> , 西田翔, 黒川美保子, 藤岡稔大
152. 生体エネルギー代謝に及ぼす概日リズム変化の影響	共	2007年03月28日	日本薬学会第127年会	元流梨恵, 藏元佑嘉子, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大, 添田泰司, 占野廣司
153. エリンギウムの神経因性疼痛におよぼす影響	共	2007年03月28日	日本薬学会第128年会	辛島紀子, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大
154. ヤマブシタケの脳保護作用に関する研究	共	2006年12月9日	第23回日本薬学会九州支部大会	樫川舞, 三島健一, 早川和秀, 内舩健, 入江圭一, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大, 江頭伸昭, 岩崎克典, 藤原道弘
155. セイタカアワダチソウの組織培養と二次代謝成分	共	2006年06月16日	日本食品化学学会第12回総会・学術大会	金海麗, 穴井豊昭, 石丸幹二, 田中隆, 河野功, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大
156. ホンダワラ由来低分子画分の腫瘍細胞増殖抑制について	共	2006年03月29日	日本薬学会第126年会	高山梢子, <u>吉田都</u> , 岩瀬由紀子, 堀内茂隆, 藤岡稔大
157. 卵巣摘出マウスにおけるクチナシの抗不安作用について	共	2006年03月29日	日本薬学会第126年会	橋本和樹, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大,

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
158. 生体のエネルギー代謝に及ぼす時間制限摂食の影響	共	2006年03月29日	日本薬学会第126年会	吉永匡弘, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大
159. ケールの糖尿病に対する作用について	共	2006年03月29日	日本薬学会第126年会	西田翔, <u>吉田都</u> , 黒川美保子, 山崎明子, 藤岡稔大
160. モルヒネの鎮痛効果の日周リズムにおよぼす時間制限摂食の影響	共	2005年12月1日	第22回日本薬学会九州支部大会	清藤宏幸, <u>吉田都</u> , 小柳悟, 藤岡稔大, 添田泰司, 占野廣司, 藤秀人, 大戸茂弘, 樋口 駿
161. ケールの生活習慣病に及ぼす影響	共	2005年12月1日	第22回日本薬学会九州支部大会	西田翔, <u>吉田都</u> , 黒川美保子, 山崎明子, 横下正彦, 藤岡稔大
162. Hemiphragma heterophyllumのフェニルプロパノイド及びイリドイド配糖体	共	2005年04月28日	日本食品化学学会 第11回総会・学術大会	森暁美, 穴井豊昭, 石丸幹二, <u>吉田都</u> , 藤岡稔大
163. ケールに関する研究	共	2005年03月30日	日本薬学会第125年会	中島文, <u>吉田都</u> , 西田翔, 黒川美保子, 横下正彦, 藤岡稔大
164. プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白発現に及ぼす海藻由来多糖成分の影響	共	2005年03月30日	日本薬学会第125年会	酒井恵子, <u>吉田都</u> , 西田教行, 松永和久, 山内淳史, 高田二郎, 加留部善晴, 片岡泰文, 片峰茂, 藤岡稔大
165. INFLUENCE OF FEEDING SCHEDULE ON 24-HR RHYTHM OF MORPHINE ANALGESIC EFFECT	共	2004年7月18日～	International Narcotics Research Conference	Hiroyuki Kiyofuji, <u>Miyako Yoshida</u> , Toshihiro Fujioka, Ayaka Matsuo, Shigehiro Ohdo, Shun Higuchi
166. THE ELUCIDATION OF THE MECHANISM OF 24-HR RHYTHM OF ANALGESIC EFFECT INDUCED BY MORPHINE	共	2004年7月18日～23日	International Narcotics Research Conference	<u>Miyako Yoshida</u> , Toshihiro Fujioka, Shigehiro Ohdo, Shun Higuchi
167. ケールに関する研究	共	2004年03月29日	日本薬学会第124年会	中島文, <u>吉田都</u> , 三橋國英, 藤岡稔大, 黒川美保子, 新島範高, 横下正彦
168. 鎮痛効果を指標にした薬物活性リズムと機序解明	共	2003年3月29日	第123回日本薬学会年会	<u>吉田都</u> , 松尾綾香, 大戸茂弘, 藤秀人, 樋口駿
169. モルヒネの至適投薬時刻の設定を指向した研究	共	2003年09月06日	第24回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム	松尾綾香, <u>吉田都</u> , 大戸茂弘, 藤秀人, 樋口駿
170. モルヒネの鎮痛効果の日周リズムにおよぼす時間制限摂食の影響	共	2002年12月15日	第19回日本薬学会九州支部大会	松尾綾香, <u>吉田都</u> , 大戸茂弘, 藤秀人, 樋口駿
171. Chronopharmacology of analgesic effect and its tolerance induced by morphine	共	2001年9月5日	61st Congress of International Pharmaceutical Federation	<u>Miyako Yoshida</u> , Shigehiro Ohdo, Shun Higuchi
172. モルヒネの効果増強を目的とした時間薬理学的研究:鎮痛閾値の日周リズムと投薬タイミング	共	2000年10月24日	第38回日本癌治療学会総会	<u>吉田都</u> , 大戸茂弘, 高根浩, 富吉由貴, 湯川栄二, 樋口駿
<b>3. 総説</b>				
1. The Bitterness Intensity of Pharmaceutical Ingredients Determined by Taste Sensor.	共	2015年2月	IEEJ Transactions on Sensors and Micromachines, 135(2), 46-50 (2015)	Uchida T., <u>Yoshida M.</u> 味覚センサーを用いた医薬品原末の苦味強度に関する総説。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 味覚センサーを用いて医薬品の味を科学する	共	2015年2月	ファルマシア, 51(2), 130-134 (2015)	<u>吉田都</u> , 内田 享弘 味覚センサーを用いた様々な医薬品の苦味評価についての読み物。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 第34回（平成25年度）薬学研究奨励財団 研究助成金 グループB		2014年3月	薬学研究奨励財団	ヒト苦味受容体の構造変化を考慮した医薬品の新規苦味予測技術の開発
2. 基盤研究（C）,（課題番号：25460234）		2013年4月～2016年3月	科学研究費補助金	IAsysを用いた医薬品の苦味予測法の確立と製剤設計への応用、研究代表者
3. 基盤研究（C）,（課題番号：24590226）		2012年4月～2015年3月	科学研究費補助金	培養味蕾細胞と膜電位感受性色素を組み合わせたハイブリッド型味覚センサーの開発、研究分担者
4. 基盤研究（C）（課題番号：22590158）		2010年4月～2013年3月	科学研究費補助金	味蕾細胞を用いた味覚測定技術の開発と苦味マスキング設計への応用、研究代表者
5. 若手研究（B）,（課題番号：18790133）		2006年4月～2008年3月	科学研究費補助金	フェンタニルの鎮痛効果の日周リズムを考慮した投薬設計法の開発
6. 若手研究（B）（課題番号：16790116）	単	2004年4月～2006年3月	科学研究費補助金	神経因性疼痛の時間治療を指向した基礎的研究、研究代表者
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2009年4月1日～2011年3月31日	兵庫県薬事審議会委員			
2. 2008年10月1日～現在	日本注射薬臨床情報学会理事			